

# 第2期日光市水道事業経営健全化計画の実施状況(総括)

「第2期日光市水道事業経営健全化計画」は、日光市総合計画後期基本計画および日光市水道ビジョンに定める水道事業の将来像の実現を目指し、経営基盤を強化するため、歳入の確保と歳出の抑制について、それぞれ目標を設定し、その達成に向けて取り組むべき課題を定めたものです。平成24～27年度の4年間を計画期間として定めており、実施状況は次のとおりとなりました。

くわしくは 水道課 水道総務係 ☎21-4532

## (1)実施状況について

経営基盤を強化するために4つの具体的な目標を掲げ、全ての目標において達成することができました。

具体的目標	効果額	目標額	実施状況
		実績額	
		目標額との差	
財源の確保と受益者負担の原則に基づく公平性確保のため、滞納状況の水道料金を解消し、平成27年度末までに未収金の増収額累計3,000万円を目指す		3,000万円	【達成】 現年度分収納対策として給水停止や訪問徴収を実施し、未収金の圧縮に努めました。また、過年度分収納対策として、大口滞納者の整理や不納欠損を実施し、未収金の圧縮に努めた結果、徴収率が向上し、目的額を上回りました。
		7,500万円	
		+4,500万円	
組織の統廃合により事務を集約し、計画期間の平成27年度末までの営業費用(総務費)の削減額累計1億円を目指す		1億円	【達成】 日光足尾水道事務所と藤原栗山水道事務所の水道課への統合で、人件費や事務費などの経費削減を行い、以後も継続して経常経費の圧縮に努めた結果、目標額を上回りました。
		3億1,300万円	
		+2億1,300万円	
企業債残高は、平成22年度末残高の123億円を、計画期間の平成27年度末には100億円以下とし、支払利息の削減累計1億3,900万円を目指す		1億3,900万円	【達成】 過去に借り入れた高金利企業債の繰上償還や、建設改良事業に内部留保資金や建設改良積立金を充当し企業債発行を抑制したことで、平成27年度末企業債残高は93億9,000万円になり、支払利息の削減累計は目標額を1,500万円上回りました。
		1億5,400万円	
		+1,500万円	
経営健全化に向けた施策の効果額は、計画期間の平成27年度までに2億6,900万円を目指す		2億6,900万円	【達成】 各指標の数値を合算した施策の効果額は、5億4,200万円となり、目標額を2億7,300万円上回りました。今後もさらなる徴収・削減努力を継続し、健全で効率的な経営に努めます。
		5億4,200万円	
		+2億7,300万円	

## (2)今後の取り組みについて

これまでの経営健全化の取り組みで、平成27年度は1億3,000万円の純利益、平成24～27年度は累積4億5,000万円の黒字となり、健全な経営を堅持することができました。しかし、給水収益の減少、多額な未収金、老朽施設の更新・修繕費用など、事業経営は厳しさを増すことが予想されることから、一層の効率化と経営改善を図る必要があります。第2期日光市水道事業経営健全化計画は一定の成果を上げていることから、平成28～32年度の第3期計画でも方針を引き継ぎ、下の事項を具体的な目標として掲げ、経営基盤の強化に取り組んでいきます。

- ①財源の確保と受益者負担の原則に基づいた公平性確保のため、滞納状態にある水道料金の解消に努め、計画期間の平成32年度末の過年度徴収率29.5%を目指す
- ②今後、老朽施設の維持補修など多額の経費が見込まれることから、コスト意識を徹底し、計画期間の平成32年度末までの施設維持管理費(原水浄水費および配水給水費)の削減額累計5,000万円を目指す